

台湾の中の日本

2009年の12月20日から25日まで台湾に行
って来ましたので、そこで見たもの、とくに
「台湾の中の日本」に焦点を当てて紹介したい
と思います。

台湾は日清戦争後の1895年から第二次世
界大戦が終結する1945年までの約50年間日
本の統治下にあったそのせいかな、あちこちで日
本語を目にする機会があった。

まずは原付から。台湾では原付が大量に走っ
ているのだが、シートの後ろに日本語が書いて
あるものを何台か見つけることができた。

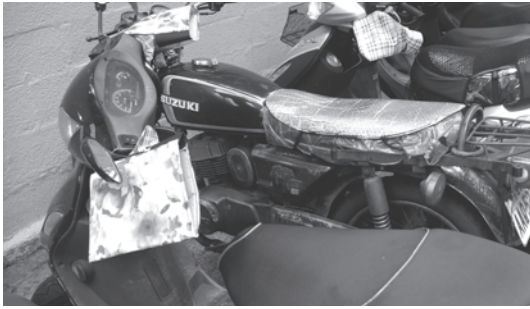


どこに行ってもこんな感じ。



「だいきらい」と、かわいい文字で書かれている原付。ちなみに、KYMCOは台湾のオートバイメーカー。

中国語学科2年 小林 隆平



花柄のハンドルカバー。



「北海極道の不敗伝説」。とてもいかついが、ハンドルにはかわいい花柄のカバーが装備されていた。



こちらは日本語とは言えないかもしれないけど、「三冠王」。カッコいい。

それから、宿泊したホテルのすぐそばにあったスーパーは「松青超市」といい、そこにも「Marsusei」と書かれてあった。調べたところ、松青超市は日本の企業との合資会社らしいから日本語読みを併記するものもなすける。しかし小林眼鏡は台湾人が設立したものらしいので、なぜ「Kobayashi」と書いているのかは不明である。ちなみに台湾人に訊いたところ、「三越」にしる「小林眼鏡」にしる「松青超市」にしる、



「小林眼鏡」。隣には英語で「Kobayashi Optical」と書いてある。

次は標識、看板など。

台湾人はすべて中国語読みしているそうだ。最後に、ちょっとしたもの。



こちらは地下街の案内板。日本語読みで "Mitsukoshi"。

もちろん看板などだけにとどまらず、多くの観光地やレストラン、ホテルでも日本語が通じたので、ほとんど日本語だけで事が済んでしまった。それどころか、中国語で話しかけても日本語で返される、ということもしばしばあった。大陸と比べると概ね日本人に対して好意的で、タクシートの運転手さんに「どこそこまで行ってください」と言うのと、「ちょっと遠いけど、いいよ。あそこは夜景が綺麗だね」と親しげに話しかけてくれたりもした。



台北の原宿、西門町で見た落書き、「ろしゆ」。意味は分からない。



こちらはコンピコータのアクセサories。なんかのケーブルだったと思う。

4時間弱で行けて、日本語もある程度通じる台湾。皆さんも一度行かれてはどうでしょうか。今回の日記の様子は下記のブログにも載せてありますので、もし興味を持たれたら是非ご覧ください。
起飛新聞Web (<http://ameblo.jp/qifei/>)